

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3971000025		
法人名	有限会社 ラッセル社		
事業所名	あっとほ一む四万十		
所在地	高知県四万十市西十佐用井734番地		
自己評価作成日	平成25年1月18日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者との信頼関係を築きながら、自宅と変わらないようなアットホームで過ごし易い雰囲気作りを目指して、ケアを心がけています。生活リハビリを中心に時間や日課に縛られるのではなく、ゆっくりとのんびりした生活ができるように1人1人のペースに合わせた援助をして、強要や束縛のないように職員は心がけています。またいつでも出入りができるように、玄関については夜間以外は施錠せず、入居者本人の意思を尊重して柔軟な対応をするようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JgvosyoCd=3971000025-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然の景観に恵まれた中山間地区に所在する、管理者の自宅を改装した事業所である。管理者、職員及び利用者ともに地元出身であり、職員と利用者、また地域の方との馴染みが深く、交流も多く見られる。認知症になっても自分らしく生きられるという理念に基づくケアを実践し、職員が各居室に一輪挿しを掛け、利用者の気持ちを和ませるなど、利用者本位に伸び伸びとした生活が送れるよう努めている。県境に位置していることもあって、ドライブや買物には隣県にも出かけ、食事は味付けに心を配り、散歩や外出支援を積極的に行っている。事業所内にはスプリンクラー、火災報知機が設置され、電化設備も整え防火対策を講じている。また、協力医療機関が近くにある。緊急時は夜でも受診可能であるなど安全安心な環境づくりをしている。職員の資質向上のため、研修会にも積極的に参加させている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	呆けても自分らしく生きる。この考えを基としてR,R,Q[Relation.地域の皆様とのつながり、Respect.高齢者を尊敬する、Quality.介護の質]を理念として、基本的な認知症ケアを盛り込んで、それを職員間で共有、支援に繋げている。	開設当初からの理念にある、三つの認知症ケアの原則「ゆっくり・一緒に・楽しんで」を全職員が共有し、毎日目にする冷蔵庫に理念を貼って実践に繋げている。スタッフ会でも実践のなかで気付いた事を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加するようにし、秋祭りなどは、子供みこしに当ホームまで来てもらっている。地域の運動会などを見学に行ったり、同地域の特養の夕涼み会などにも積極的に参加するようにし、交流に繋がっています。	秋祭りに地区の子供みこしが来てくれたり、特別養護老人ホームの夕涼み会に利用者全員で参加するほか、地区の運動会、市社会福祉協議会や病院の福祉大会にも出かけている。職員、利用者とも地元出身のため地域との馴染みが深く、近隣からの野菜の差し入れや友人の訪問なども多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談や質問には随時応じています。地域での勉強会などがあれば職員が1人は参加するようしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を行い、利用者の状況や取り組みなどを報告して、理解を求めている。市の職員以外は仕事や私用などあり全員参加による会議はできなかったが、市議にも参加してもらい意見交換や情報提供などしてもらっている。今後全員が参加できるように努力していきたい。	運営推進会議は年6回開催されている。事業所から運営状況や事故・行事報告はされているが、議事録に出欠者名の記入や、質疑応答、意見交換の内容等が記載されていない。	運営推進会議は、地域密着型サービスとしての役割を果たす上で重要であり、多くの地域代表や家族等に参加を呼びかけ双方向的な会議にし、内容をより具体的に記載した議事録を作成して全家族へ周知するなどの取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査で来てもらったり、運営推進会議に参加してもらい、ホームでの状況を話したり、行事などの情報をもらい、利用者が少しでも外出参加できるように心がけている。	運営推進会議に出席した行政職員に事業所の状況報告をしている。また、運営上必要な時には在宅介護支援センターに相談に行き、指示を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、日頃より話をし、極力しないようにしている。玄関などは、夜間以外施錠せず、いつでも出入りできる様にしている。入居者の転倒、介助支援するため行わないといけなときは、スタッフ会議などで話し合い、どうしても必要と判断したら、家族の同意を得るようにしている。	身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成しており、職員は身体拘束の弊害について理解している。利用者が外出したい行為を静止する事や言葉による拘束をしないよう気を付けている。転倒防止策として鈴をベッド柵に付けている利用者がいるが、家族に説明し了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に気をつけ、言葉による虐待にも注意をしている。スタッフ会議などで勉強会をしたり、県や市などの勉強会があれば、職員を参加させるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	そのような制度を利用するときは、管理者が市の職員と話したり情報収集し対応している。その為他の職員は余り理解していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときに、当ホームのケアに関する考え方や、取り組みを話している。退居を含めた当ホームが対応できる事がらについて説明し、家族の疑問点などを聞き、十分時間を取り説明契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームへの要望や気になる事があれば、申し送りノートに書いたり、口頭にてその都度伝えるようにしている。また利用者、家族の方にも運営推進会議に参加してもらっている。	家族会はないが、月1回家族の来訪があり、その際に意見や要望を聞いている。クリスマス会の開催時、参加した家族から、家族の参加がなかった利用者への配慮に関する意見があり、家族の参加できる行事について検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度行っているスタッフ会議で職員間の意見交換を行っている。利用者を担当してもらい意見を出してもらうようにしている。いろんな意見が出るようになり、介護などに生かされている。	利用者毎に担当者を決め、職員の気付きや要望は毎日のミーティングや月1回のスタッフ会で聞いている。利用者の入浴の順番の変更や花見時の弁当など、職員の提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議などで職員とのコミュニケーションをはかり、意見を聞いたりして働きやすい環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の社会福祉協議会に加入して研修などの情報をもらい、職員が参加できる様にしている。市でも研修会などあり、職員の意見を聴いたりして、管理者が参加させるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等には参加している。同地域内の病院を含めた担当者会議に参加したり、他施設の納涼祭などに利用者と一緒に参加するようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問聞き取りをし、本人の生活状況を聞いたり、家族や病院の看護師などに話を聞き、入所時より安心して利用してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に本人を交えた訪問をし、本人の状況状態を聞き、要望や家族の思いを聞いたりして、当ホームでのサービスや、対応できるかなど説明したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に訪問聞き取りをし、地域の介護支援専門員や関係する専門職の方々と連携をし、迅速な対応を心がけ迅速に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人に出来ることはしてもらい、掃除など一緒に行うなどして、お互いが協働して生活し過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>訪問時や必要時には入居者本人の近況などを連絡相談して、本人が安心して過ごせるように、情報を共有し、協力を得て対応している。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>車でのドライブなどで地元に行ったり、お祭りに参加したりなどしている。本人や家族の要望に応じ出来る限り外出するように心がけている。</p>	<p>馴染みの美容院の利用や初詣の参拝、家族の協力による外泊、そのほかドライブで地元の馴染みの場所を回ったりして、これまでの関係が途切れないよう支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>その場の状況や雰囲気気を配り、入居者が孤立する事ないように職員が間に入ったり、声かけして楽しく過ごせるように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居して家に帰られた方はいないが、他事業所に移られた方には、ときどき面会に行ったり、病院等で会った時など声かえするようにしている。本人が亡くなられた家族なども会えばこちらから声をかけ気さくな付き合いをしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉や表情から意思の疎通に努め、意思を伝えやすい環境づくりや、本人の意向を把握するようにしている。また家族や関係者からも情報を得て、意向に沿えるように検討している。</p>	<p>入居時の利用者の基本情報や日々の行動や思い、家族からの情報を生活アセスメントシートに記録している。利用者の言葉から把握ににくい時は、職員が呼びかけて、一緒に散歩したり、利用者のできる事を手伝って貰いながら思いを把握している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前に自宅などを訪問して、その方の家での生活など状況を本人と家族より話を伺っている。入所時には、家族や関係機関からの情報を集め、これまでの暮らしの経過などについて把握するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やサービスチェック表などを確認している。また職員からの話を聞いたりして、入居者1人1人の生活リズムを理解把握すように努めている。その方のできることで声かけをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族より日頃から意見や思いを聞かせていただき、介護計画に反映させている。入居者の状態や変化に応じて、日々の申し送りやケアカンファレンス、スタッフ会議などで職員で話し合い介護計画に生かしている。医療行為が必要な場合は、医師や看護師の意見を聞き協議している。	利用者の日々の状態や変化を把握し、利用者、家族の意向を確認して、毎月のスタッフ会で担当者と検討して介護計画を作成している。3ヶ月ごとに見直しを行い、状況によって随時見直しを行なっている。全職員がケアプランを家族に説明できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など個人記録に午前、午後と記録し、夜間は1人になるので詳しく記録している。いつでも職員が確認できる様にして、情報を共有している。問題点などあれば、すぐに話し合いよりよいケアの実践が出来るよう介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院送迎や買い物など必要な支援に対しては、柔軟に対応している。また特別な外出や外泊などで送り迎えがいる場合など、個々が満足できる様に支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で参加してもらっている地域統括支援センターの職員、市議会議員、地域の区長さんなどと意見交換したり情報をもっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自業所の協力医とは、何かあれば連絡を取り、指示を仰ぐなどして協力がとれている。また本人や家族が希望するかかつけ医がある場合は、家族と相談協力して通院介護できる様にしている。	利用者全員が地元の協力医療機関で受診しており、通院介助は職員が対応している。協力医療機関には夜間の緊急時でも受診が可能であり、異常があれば家族に連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当職場には、看護職員はいなく、訪問看護等も受けていない。(市の病院しかなく出来ないとのこと)その為、受診時にバイタルチェック表や記録を持って行き相談したり、連絡を取り指示を仰いでいる。緊急時なども協力病院に連絡し、指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が不安にならないように、出来るだけ面会するようにしている。また医師と連絡を取り、ホームでの対応可能な状況などを話し合い、早期退院できるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その方の状態により本人や家族に注意を払い支援している。医療行為での入院以外で、通院や往診で対応できる限り、関係者等と話し合いをしてホームで対応する事を共有している。	家族には重篤のため医療行為が必要になった段階で、医療機関での対応になる事を契約時に説明している。入院後1ヶ月以内に退院した場合は、医療機関との連携を密に取り、可能な限り事業所で対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、消防による普通救命講習を受けるようにしている。新しい職員については、随時訓練を行っている。さらに3年に一度は更新講習を消防より行ってもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災総合訓練は年に一度行い、その他に避難訓練など実施している。また災害に対してのマニュアルも作成している。地区の防災マップを玄関横にはり、すぐに確認できる様になっている。それ以外に地区の区長さんを通じて地区の協力がえられるようお願いしている。	昨年7月に火災を想定した事業所独自の避難訓練を行なっている。今年3月には運営推進会議後に委員にも参加してもらい、消防署員の立会いで火災訓練を実施する予定である。消火器、スプリンクラー、火災報知機などの防火設備は整備されている。	飲料水の備蓄が少ないので、県の地震防災対策指針に掲げる量を目安に準備する事を望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げているように(Respect)高齢者を尊敬するという考えの通り、人生の先輩としての尊敬の念を持ち、一人ひとりを尊重している。言葉使いや行動にも十分注意をしてケアをしている。スタッフ会議や申し送り等で関わり方などきずいたことがあれば話し合い対応している。	他の利用者に聞こえない様に声かけしてトイレに誘導している。言葉使いが攻撃的、挑発的にならないよう心がけ、また馴れ合いにならないよう気を付けている。尊厳を保つため、名前で利用者呼び、ニックネームで呼ぶ利用者には家族の了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに合わせた声かけや、その方の表情や行動を読み取り、本人が決定しやすいように雰囲気作りをしている。職員が強制するのではなく、入居者の方が自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れとしてはあるが、その方の体調や気持ちを尊重して対応できるように心がけている。しかし他者との関係もある為に、こちらで誘導する時もある。共同生活を考慮してうえで、可能な限り希望に添える支援をしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時などその方に合う服を職員が一緒に選んだりして支援している。一人で更衣できる人は自分で選んでもらい更衣してもらっている。職員は見守り、介助が必要な場合だけ手助けするようにしている。なじみの美容院があれば出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、テーブルを拭いてもらったり出来ることで協力してもらっている。食事については、入居者と職員が同じテーブルで会話をしながら楽しく食事ができるようにしている。食後の片づけ等も一緒に行っている。	職員が利用者に積極的に話しかけながら、一緒に食事をしている。食器拭き、野菜切りなど、利用者のできる事を手伝って貰っている。利用者に希望を聞いて刺身や誕生会にはちらし寿司を出すなど好みを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック表を作り個々の食事量把握に努めている。個人個人の好みを把握して、水分補給にしてもお茶以外で対応するなどしている。何かあれば申し送りなどで情報を共有して一人ひとりの状態などに合った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きうがいを声かけし徹底している。職員が横で見守り介助している。夕食後は義歯などの洗浄をしている。また週に2回の洗浄剤による義歯洗浄をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄記録をチェックし、排泄の習慣やリズムを理解把握して、y通洞支援している。基本的に日中はパンツにパットでの対応をし、定期的なトイレ誘導を行い、トイレにての排泄支援を行っている。	利用者の排尿、排便をチェックし、利用者毎の排泄パターンを把握してトイレに誘導している。布パンツ、紙パンツ、オムツを利用者に応じて使い分け、夜間は、声かけによるトイレ誘導か、ポータブルトイレの使用かを利用者の意向に委ね、排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを出したり、水分補給に気をつけている。散歩をしたり生活リハ等により自然排便を促している。どうしてもだめな場合は、医師と相談をして服薬や座薬等による対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日入浴ができるようにしている。入居者の希望要望が一番に考えているが、二日以上入らないことがないように、声かけをしている。午前午後は関係なく希望があれば入浴できるようにしてる。	一日おきに午前、午後を問わず利用者の希望に沿って入浴を支援している。夏は毎日シャワーをする利用者もいる。入浴を拒否する利用者には職員が交代して声かけしたり、タイミングをみて誘導し、入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事や状況に応じ、また入居者の行動などを把握して、本人のペース合わせて休息できるように支援している。薬剤等の使用については、家族と相談したのちに、医師の受診を受けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の医療情報ファイルを作り、薬の変更などがあれば記入し、申し送り確認している。スタッフ会議で個人個人の情報を確認して理解するようにしている。また服薬時には本人に手渡し、服薬できているか職員が確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの出来ることや趣味などを理解把握して、掃除のモップ掛けをしてもらったり、洗濯物を畳んでもらっている。また編み物をしたり、折り紙をしたりしている。強制するのではなく、進んで行えるような雰囲気作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて散歩したり、日常の買い物やドライブなど出かけている。またお花見や遠足など職員が計画をして外出し、季節を感じるができるようにしている。外での食事など普段できないことを取りれている。近所の散歩などで近くの方と会話したり、お花をもらって帰ったりもしている。	天気の良い日は職員の声かけで、周辺を散歩している。週2回定期的に隣県に買物に行く時は、利用者のドライブを兼ねて一緒に出かけている。また、季節毎に全員で花見などのドライブにも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がなくなったり持っていないのにとられたなどの訴えが以前あった為、事業所側で必要時に立替えて買い物したり、渡して使ってもらうなどの対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より要望があるときは支援をしている。本人で出来る方などは、電話機を渡しかけてもらっている。手紙については、職員が代筆したり、居室に机を持って行き書いてもらっている。差出については、職員が代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の状況に応じたテズをしたり、カーテンを引くなど光の配慮をしている。冷房や暖房等入居者の要望など聞いて使用している。また季節を感じるように季節の花を飾ったり、三月にはお雛様、五月にはこいのぼり、七月には七夕、十二月はクリスマスツリーなど季節の行事に合った飾り付けをしている。	彩光の良い共用空間であり、利用者はソファーでくつろいだり、疲れて眠くなれば居間で休んだりして、利用者が思い思いに過ごしている。季節の行事に合わせて、雛飾り、七夕、クリスマスツリーなどの飾り付けをし季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、リビングのソファーにて気の合う者同士が座り思い思いに過ごしている。またベランダにはベンチを置き、畳の間にはカーペットを敷いている。日向ぼっこをしたり、横になり休んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人や家族に話をし、使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。入居者の思い出のものを置いたり、写真(家族や孫など)を飾ったり、している。また位牌を持ってきている方がいたり、自分なりに過ごせるようにしている。	職員が各居室の一輪挿しに花を活けて部屋を和ませている。ぬいぐるみ、位牌、枕など馴染みの物が持ち込まれている居室もあるが、個人の馴染みの品物や、家族の写真等も無く、殺風景な居室が見受けられた。	利用者の特性を考慮して、家族にも協力してもらい、利用者の思い出の品や好みの物を取り入れて居心地よく過ごせるような工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、浴室など手すりをつけ、ている。流し台は低いものにして入居者の方が使いやすいように工夫している。トイレは張り紙をして誰でもわかるようにしている。また居室の引き戸横に名前を書き、本人や他者の誰もがわかるようにしている。入居者の方が安全で自立した生活が送れるように努力していく。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				